

町外コミュニティの協働デザイン
＋
ワークショップの記録

【安達運動場仮設住宅団地周辺地区】
【建設技術学院跡地仮設住宅団地及び周辺地区】

2015年9月

戦略的創造研究推進事業（社会技術研究）開発
コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン 研究開発プロジェクト
「広域避難者による多居住・分散型ネットワーク・コミュニティの形成」
早稲田大学 都市・地域研究所
早稲田大学創造理工学部建築学科 佐藤研究室

住宅・コミュニティ再建デザインゲーム

二本松市石倉地区に整備する浪江町町外コミュニティに関する復興まちづくり体験

結果報告とそれをもとにした 町外コミュニティづくりに関する9つのアイデア

平成26年8月6日

(午前の部 09:00-12:00、午後の部 14:00-17:00)

二本松市安達運動場仮設住宅団地 B 集会場



主催：浪江町復興まちづくり協議会、まちづくり NPO 新町なみえ

協力：安達運動場仮設住宅自治会、早稲田大学都市・地域研究所

はじめに

二本松市の安達運動場の隣接した場所に、200戸の県営復興公営住宅が建設されることになりました。そして二本松市では、この県営住宅の敷地の倍以上の広さの土地を地区計画の都市計画決定を行って、宅地として住宅地や商業・公共施設が建設可能となった。この事は、避難住民にとってはその生活の拠点となる充実した「町外コミュニティ」の可能性が開けてきたことを意味していて、ありがたい限りです。

そこで、この場所でどのような日常生活やコミュニティを営むことができるか、関心のある住民で考えるワークショップを開催しました。具体的なイメージをみんなで共通に描くために、200分の1のさまざまな復興住宅、戸建て住宅、施設や緑地などの標準的なパーツが用意されました。8月6日の午前と午後の二回に分けて、それぞれ3時間ずつ、行われたワークショップという協働作業は、和気藹々の雰囲気ですさまざまなイメージが交換されました。

このワークショップは模型を使って将来像を描いていますが、まちの環境をデザインしたりすることだけが目的ではなく、ふるさとから遠く離れた地で、どのようにコミュニティを維持して仲良く助け合いながら健康に生活してゆけるか、あるいは二本松の市民や地域の地域とコミュニティを形成できるか、あるいは家族と近くに生活することや知り合いが訪ね交流できることなど、さまざまな事を話し合いました。今回参加したのは、安達運動場仮設住宅の住民が多く、復興住宅に入居を希望するほか、近くに自律再建住宅を持ちたい人、あるいはグループで商店を再開できたらいいと考えている人などさまざまでした。いずれにしても、このワークショップを通して、具体的な町外コミュニティのイメージがわいて、ここに住んだり、商店を再開したいと考える住民にとって、さまざまな準備や心構えができました。

この報告書では、アイデアという形でこのワークショップでの具体的な内容をまとめましたがこれは単に行政に対する提言というのではなく、これからこのまちづくりに参画する多くの住民や事業者、あるいはまちづくり会社などに向けた、あるいは私たち自身に向けた提言でもあります。このような内容が参考にされて、みんなが仲良く生活できる町外コミュニティが各地で実現することを心から願っています。

最後に、準備と運営に協力してくださった早稲田大学の関係者、なかでも学生さん達、そして当日オブザーバとして参加してくださった行政職員の方々にも、に心からお礼を申し上げます。

安達運動場仮設住宅自治会 自治会長 瀬賀 範眞

浪江復興まちづくり協議会 会長 神長倉 豊隆

平成26年9月4日

目次

1章 住宅・コミュニティ再建デザインゲームの目的と内容

1-1 デザインゲームの目的

1-2 デザインゲームの内容

2章 浪江町町外コミュニティづくりに対する9つのアイデア

アイデア1 復興公営住宅建設と周辺まちづくりを一体として進める町外コミュニティ整備

アイデア2 既存の生活サポートセンターを拡充して整備する生活サービス・福祉拠点

アイデア3 復興公営住宅周辺敷地を浪江町等が取得しての福祉・商業施設等の事業用地確保

アイデア4 二つの考え方に基づいて行う町外コミュニティの整備

アイデア5 地域コミュニティの賑わいの拠点として整備する診療所

アイデア6 豊かな緑地や公園を確保する為の駐車場の配置の工夫

アイデア7 復興公営住宅建設用地北側の斜面空地の多様な活用

アイデア8 町外コミュニティの建物建設と併せた住民の移動交通サポートのしくみの整備

アイデア9 浪江町民が復興公営住宅に優先入居できるしくみの整備

3章 まとめ

○資料編

1. 住宅・コミュニティ再建デザインゲームの目的と内容

1-1 デザインゲームの目的

分散避難を強いられている浪江町民にとって、住まいや暮らしの再建は困難を極めています。様々な選択を迫られる中で、再建先での生活像や、住環境を具体的にイメージすることは難しく、事故から3年を経て形成された現在の仮設・借り上げ住宅のコミュニティを離れての再建に、不安を持っている方も多くいるのが現状です。

「住宅・コミュニティ再建デザインゲーム」は、仮設住宅の再編後に望まれる暮らし、家族や近隣関係を含むコミュニティのあり方、住環境等に関する要望などについて意見交換を行い、町外コミュニティの将来像を考えることを目的とした住民参加型のワークショップです。

今回は、二本松市油井字石倉地区に建設が予定されている浪江町の町外コミュニティ（復興公営住宅200戸+診療所 及び周辺地区）を避難者の生活再建の仮想敷地とし、この場所での将来の暮らしを擬似的に考える機会として、会をもうけました。

地区に整備されるまちの将来像について、ジオラマ模型を用いて、住民の皆さん自らの手で検討、シミュレーションしてもらう事で、実際に住宅や暮らしを再建する際の意向や、その先の生活の具体像を考イメージしてもらうことを目的として行いました。



開場の写真、ジオラマ模型を囲んでの様々な検討の様子

1-2 デザインゲームの内容

当日は下記の内容に従って、午前と午後の2回にわたり会を行いました。安達運動場仮設の住民を中心に、計50名ほどの浪江町民が参加し、ジオラマ模型を用いながら様々な意見交換が行われました。

①会の趣旨、敷地と復興公営住宅の計画条件の説明

はじめに、会の目的と進め方に関して、参加者全体に対して説明を行った。その上で、検討の対象地である二本松市油井字石倉地区の概要、そこに整備が予定されている県営の復興公営住宅の戸数や、医療施設に関して基本的な情報を共有した。

②町外コミュニティづくりに関する2つの基本的な考え方の説明とグループ分け

次に、模型を使った検討を進めるためのベースとして、下記2つの町外コミュニティ整備に関する基本的な考え方を示した。参加者の意思でどちらかを選択してもらい、これに沿って2グループに分かれてもらった。なお、ここで示した2つの考え方は、NPO新町なみえがこれまでに行ってきた、ワークショップや意見交換の結果を踏まえて、まとめられたものである。

考え方1 低密度で自然豊かな市街環境を整備し、広場や菜園等の従前のライフスタイルを継承できる場の実現をめざした「自然豊かにのんびり暮らせるまち」

考え方2 分散避難している町民がなるべく多く集まって、便利に安心して暮らせる場の実現を目指した「色々な施設が充実しているにぎわいのあるまち」

③ジオラマ模型を使っての検討と意見交換

各グループで、下記の項目を中心に、ジオラマ模型を参加者に動かしてもらいながら、意見交換や要望出しを行った。

- ・復興公営住宅200戸と診療所の配置、ボリューム、中庭、駐車場などについて
- ・復興住宅周辺市街地に必要とされる施設、住宅様式などについて

④各グループの検討結果の全体での共有と総括

最後に、全体での話し合いに戻り、各班の代表者にグループでの検討内容のまとめを発表して頂き、参加者全体でのアイデアや意見の共有を行った。

2. 浪江町町外コミュニティづくりに対する9つの提案

午前、午後と2回にわたり会を行った結果、大きく9項目の意見や要望が挙げられました。まとめて提案としたものを下記に示します。

アイデア1 復興公営住宅建設と周辺のまちづくりを一体として進める町外コミュニティの整備

県の復興公営住宅の建設と合わせて、その南側の地区に商店や、自律再建住宅、公共施設などを整備して、浪江町の町外コミュニティのモデルとなるようなまちづくりを、官民が連携して進めるアイデアです。

① 低密度で自然豊かな市街環境を整備し、広場や菜園等の従前のライフスタイルを継承できる場の実現をめざした「自然豊かにのんびり暮らせるまち」

アイデア2 既存の生活サポートセンターを拡充して整備する生活サービス・福祉拠点

現在ある生活サポートセンターを、介護予防などの施設、あるいは子育て拠点などを充実して、生活サポート施設を隣接地か復興住宅団地内に整備するアイデアです。

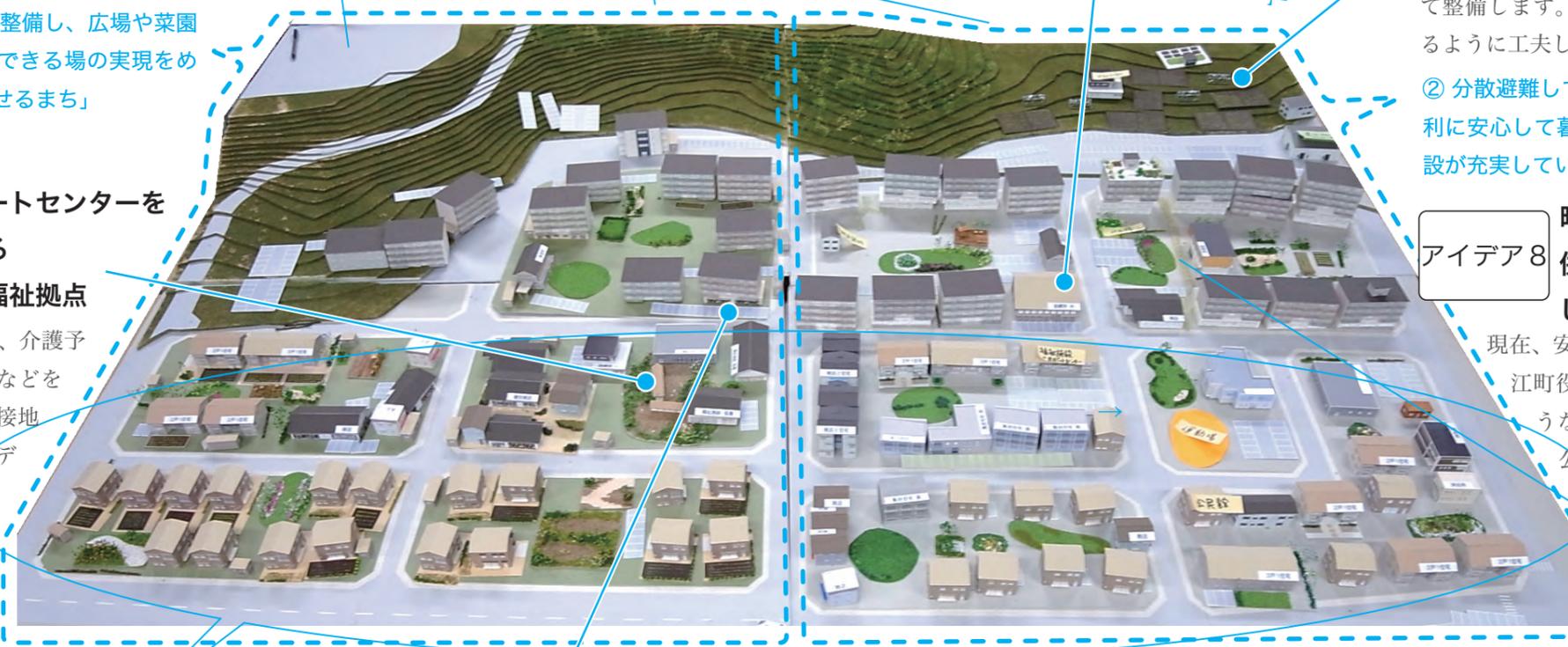
アイデア3 復興公営住宅の隣接地を浪江町などが取得することによる福祉・業施設等の事業用地確保

復興公営住宅の隣接地に、浪江町などが土地を取得して、生活サポートセンターなどの福祉施設や商店などを再開する用地を確保するアイデアです。

アイデア4 明確な二つの考え方に基づいた町外コミュニティの整備

全体の団地の計画は、次の模型で表現されているように、緑豊かなゆったりした暮らしができる街区と、賑わいのある都市的な雰囲気の街区に明確に分けて、好みの生活が選べるようにするアイデアです。

安達運動場仮設住宅団地



アイデア6 豊かな緑地や公園を確保する為の駐車場の配置の工夫

復興公営住宅の駐車場は、1戸あたり1台半程度を確保して、なるべく多くの緑地や公園を確保する工夫をするアイデアです。その他に、みんなが共同で使える来客者用などの駐車場を整備して対応します。

アイデア5 地域コミュニティの賑わいの拠点として整備する診療所

診療所等の医療施設が復興公営住宅団地の中に整備される際、その近くに集会施設や広場などを配置して、さらに、商店などが整備できるようにして賑わいの拠点として整備するアイデアです。

アイデア7 復興公営住宅建設用地北側の斜面空地の多様な活用

復興公営住宅用地の北側の斜面空地を、魅力的な住環境を整える為の憩いの空間として、様々な活用するアイデアです。菜園とコミュニティガーデン、緑の散策路やゲートボール場、パークゴルフ場等を併せて整備し、周辺住民も利用できる地域のコモンスペースとして整備します。出来るだけの多くの土地を有効利用するように工夫します。

② 分散避難している町民がなるべく多く集まって、便利に安心して暮らせる場の実現を目指した「色々な施設が充実しているにぎわいのあるまち」

アイデア8 町外コミュニティの建物建設と併せた住民の移動交通サポートのしくみの整備

現在、安達運動公園仮設住宅団地において、浪江町役場が運行させている定期運行バスのような、移動交通サポートの仕組みを、復興公営住宅の整備と併せて整備するアイデアです。

県営復興公営住宅200戸
集会所、診療所

二本松市安達市街地へ

アイデア9 浪江町民が復興公営住宅に優先入居できるしくみの整備

ここで検討したような魅力的な復興公営住宅が建設され、周辺整備が進めば多くの町民が復興公営住宅への入居を希望することとなる。ここに建設される復興公営住宅は、浪江町民、特に二本松へ避難している住民が優先入居できるようしくみを整備すること。

※ 住宅・コミュニティ再建デザインゲーム（午後の部）での検討に使われた最終成果物の模型写真に加筆して作成

グループ1「自然豊かにのんびり暮らせるまち」

2. 会の中で挙げられた町外コミュニティづくりに関する要望と意見のまとめ

当日、参加者の方々には、下記に設定した6人の役柄になりきってもらい、町外コミュニティづくりに関する意見交換を行いました。午前、午後と2回にわたり会を行って挙げられた意見を下記に示します。

役柄設定① 大倉さん 役の参加者の意見

娘と三人暮らし。NPO 職員。安達運動場仮設在住。現状の仮設住宅でのコミュニティを存続させながら暮らしていきたい。復興公営住宅入居希望

- 駐車場は一台分は自宅近くに確保して、孫が来るときに使える共有のものが欲しい。
- サポートセンターみたいなものが集会所の中にあると助かる。
- 一棟ずつ拾っていってくれるようなマイクロバスがあると便利。

役柄設定② 亀田さん 役の参加者の意見

82 歳。妻と2人暮らし。無職。杉内運動公園仮設在住。今後の生活に不安を感じている。復興公営住宅入居希望

- 腰掛けてお花を眺められるような中庭、広場があるといい。集会所の近くだと使い勝手もよい。
- 民有地を浪江町で買い上げて、それを個人で借りられる、という風になると嬉しい。
- 建物はなるべく低層で、集会所は中央にあると使いやすい。
- こどもたちがきたときに使える駐車場がほしい。
- 通いやすい位置に診療所があると助かる。
- 戸建ての、庭や畑のある家に暮らしたい。

役柄設定③ 松本さん 役の参加者の意見

54 歳。夫と娘暮らし。安達運動場仮設在住。高齢の母との同居を考えている。住宅自立再建希望

- 自立再建するなら戸建てがいい。
- 商店を集約した方がいい。イベントをやる際に歩行者天国にして、そうするとにぎわいも出てくる。
- 福祉施設に来て、買い物をして帰る、というのを可能にする配置、動線があるといい。
- 戸建てとそれ以外が出てしまうなら、エリアで分けた方がいい。
- 自立再建するならもちろん戸建ての方がいい。
- 高齢者のための見守りやアパートがあるとよい。

役柄設定④ 西村さん 役の参加者の意見

63 歳。夫と2人暮らし。安達運動場仮設在住、元飲食店経営。商店の共同再建希望。住宅自立再建希望

- 車社会だから、駐車場は重要。集会所の近くには共有の駐車場が必要。
- 自立再建するなら戸建てがいいし、お店があるからなおさら。
- 浪江町で土地を買って公園をつくってくれたら気持ちとしても使いやすい。
- バス停は、公営側と民有地側両方に必要。お店や施設の近くに設けたい。
- 散歩道やこどもの遊ぶ広場が敷地内にあるとよい。
- 地元の商店が近くにあった方がいい。

役柄設定⑤ 高須さん 役の参加者の意見

34 歳。夫と娘と三人暮らし。元農家。東雲の借上げ仮設住宅在住。住宅自立再建希望

- 公営住宅の駐車場は、家から近いといい。
- 公営住宅敷地内の広場は、集会所と隣接してあると使いやすい。
- 施設に併設する広場を開放するなどして、みんなで使いたい。
- 一階にコンビニのような店舗があると足の不自由な方も安心。通り沿いと周辺の方も使える。
- 公営住宅敷地の南端などみんなが行きやすく、見える場所に公園が欲しい。
- 広場でこどもが遊ぶので、駐車場と隣にならない方がいい。

役柄設定⑥ 畠山さん 役の参加者の意見

70 歳。夫と2人暮らし。専業主婦。二本松の借上げ仮設住宅在住。娘夫婦と孫が福島在住。復興公営住宅入居希望

- 広場には公衆トイレを設けたい。
- 自立再建するなら、戸建てに住みたい。
- 小さくても医療施設が近くにあると安心。
- 診療所に来たついでに買い物ができるような配置が便利。そうすると駐車場も必要。
- 遊具のある公園もほしい。

グループ2 「色々な施設が充実しているにぎわいのあるまち」

2. 会の中で挙げられた町外コミュニティづくりに関する要望と意見のまとめ

当日、参加者の方々には、下記に設定した6人の役柄になりきってもらい、町外コミュニティづくりに関する意見交換を行いました。午前、午後と2回にわたり会を行って挙げられた意見を下記に示します。

役柄設定① 大倉さん 役の参加者の意見

娘と三人暮らし。NPO 職員。安達運動場仮設在住。現状の仮設住宅でのコミュニティを存続させながら暮らしていきたい。復興公営住宅入居希望

- 診療所の近くには雨風をしのげる東屋と図書館があったらいい。
- 診療所には拾い駐車を設け、福島市等からも来るので道路沿いがいい。
- この中にはサンプラザのような生活必需品揃う商店が欲しい。
- 今のサポートセンターくらいの規模で福祉施設が欲しい。
- 若い人も住めるように幼稚園があったほうがいい。
- 診療所の近くにはみんなが集まってゲートボールをやる広場が欲しい。

役柄設定② 亀田さん 役の参加者の意見

82 歳。妻と2人暮らし。無職。杉内運動公園仮設在住。今後の生活に不安を感じている。復興公営住宅入居希望

- オープンスペースが狭い場合は建物を積み上げればスペースが生まれる。
- 診療所の近くにお年寄りの方が集まれるサロンがあればいい。
- 斜面地を利用することで公園などのオープンスペースを設けやすい。
- 共同農園でみんなで集まるといいし、使わなくなったら開発もできる。
- コンビニや床屋などの生活に最低限必要な商店だけあればいい。
- アパートだと隣人に気を使うので出来るだけ戸建てに住みたい。

役柄設定③ 松本さん 役の参加者の意見

54 歳。夫と娘暮らし。安達運動場仮設在住。高齢の母との同居を考えている。住宅自立再建希望

- 診療所は復興公営住宅建設予定地の真ん中にあると気軽に来れる。
- 診療所の近くにはデイサービスなどの福祉施設もあるといい。
- 民地で住むなら戸建て住宅に住みたい。
- 200 戸では足りないので規模を拡大して 400 戸にすることも考えられる。
- ソーラーパネルを公営住宅の屋根や斜面地に設けてたい。
- 公営住宅内の駐車場近くに広場を設けてイベントを行えるようにしたい。

役柄設定④ 西村さん 役の参加者の意見

63 歳。夫と2人暮らし。安達運動場仮設在住、元飲食店経営。商店の共同再建希望。住宅自立再建希望

- 診療所と集会所、サポートセンターを集めてコミュニティの拠点にしたい。
- 集会所の近くにはゲートボールを出来る広場があるといい。
- 農地で採れた野菜等を販売出来る直売所が斜面地にあつたらいい。
- 北側の森の中に散策路を設けて散歩出来るようにしたい。
- 分散している浪江の小学校の統合校をこの場所に設ける。
- 公営住宅建設予定地にリザーブ用地を確保しておけば、今後も開発を行える。

役柄設定⑤ 高須さん 役の参加者の意見

34 歳。夫と娘と三人暮らし。元農家。東雲の借上げ仮設住宅在住。住宅自立再建希望

- 診療所の近くにはある程度の駐車場があったほうがいい。
- 診療所に来た時に集まって話せるようなカフェが欲しい。
- 診療所は復興公営住宅建設予定地の真ん中に置くのがいい。
- 民地は浪江町に買い上げてもらって、造成までしてもらいたい。
- 駐車場は規定通りの数は必要。

役柄設定⑥ 畠山さん 役の参加者の意見

70 歳。夫と2人暮らし。専業主婦。二本松の借上げ仮設住宅在住。娘夫婦と孫が福島在住。復興公営住宅入居希望

- 斜面地を有効活用し、駐車場を北側に寄せることで広い広場を。
- 復興公営住宅建設予定地に床屋やパーマ屋等生活に必要な店があるといい。

アイデア 1 復興公営住宅建設と周辺のまちづくりを

一体として進める町外コミュニティの整備

県の復興公営住宅の建設と合わせて、その南側の地区に商店や、自律再建住宅、公共施設などを整備して、浪江町の町外コミュニティのモデルとなるようなまちづくりを、官民が連携して進めるアイデアです。

復興公営住宅の整備を核としながら、周辺に商業や福祉施設といった生活をサポートする機能を配置し、居住に限らないまちとしての住環境を整えることが可能となります。また、復興公営住宅と周辺市街地が景観的・空間的に断絶することなく、一体となって調和した市街地を形成することができます。



安達グラウンド南地区北側の復興公営住宅200戸と南側の民有地を一体として考えた検討模型

アイデア2

既存の生活サポートセンターを拡充して

整備する生活サービス・福祉拠点

現在ある生活サポートセンターを、介護予防などの施設、あるいは子育て拠点などを充実して、生活サポート施設を隣接地か復興住宅団地内に整備するアイデアです。復興公営住宅への入居率が高いと考えられる、高齢者世代や子育て世代に対応した、生活や福祉のサービスの充実が可能となります。



託児所や介護予防等の福祉施設が併設した多世代交流・生活サポートセンターの検討模型

アイデア3

復興公営住宅の隣接地を浪江町などが

取得することによる福祉・業施設等の事業用地確保

復興公営住宅の隣接地に、浪江町などが土地を取得して、生活サポートセンターなどの福祉施設や商店などを再開する用地を確保するアイデアです。復興公営住宅の整備に伴い、様々な開発が予想される周辺民有地を、市場原理に任せるのではなく、適正な価格で活用していくための公的なサポートによって可能となる提案です。



安達グラウンド南地区南側の民有地を浪江町が取得した想定での施設整備の検討模型

写真奥が復興公営住宅の検討模型

アイデア4 明確な二つの考え方に基づいた

町外コミュニティの整備

全体の団地の計画は、次の模型で表現されているように、緑豊かなゆったりした暮らしができる街区と、賑わいのある都市的な雰囲気のある街区に明確に分けて、好みの生活が選べるようにするアイデアです。

① 自然豊かにのんびり暮らせるまち



「自然豊かな暮らし」という前提のもとに、「のんびり暮らせる町」という目標像を掲げて、住宅や広場、施設などを配置した。ところどころに広場や中庭ができるように建物を配置していて、その大小の中庭の連続が、全体をつなぐようなとなっている。山際や歩道の曲線と応答するよう平行を崩して公営住宅を配置し、一度建物で遮られた視界が少し進むと開けるなど、豊かな自然をかんじられるように配慮している。

また、のんびり暮らせる町という目標像に沿ったので、充実した施設とたくさんの住宅より、ひとりひとりがゆったりと暮らせるよう庭つきの戸建てを多く置いている。

② 色々な施設が充実しているにぎわいのあるまち



「多様な施設が充実したにぎわいのあるまち」の復興公営住宅地には、住棟を南向きにし、南側と北側に住棟を寄せることで中央部に大きなオープンスペースを設けている。この大きなオープンスペースが三つの街区で連続しており、全体で一体感を増している。

復興公営住宅の世帯数は200戸であるのに対して南側の民地では400戸を想定している。より多くの人が入居出来るように建物の密度を高く設定している。商店が計画敷地の中央に集まっており、避難されている浪江の方が事業を再開する拠点をつくろうと計画している。商店の他にも地域の福祉拠点や宿泊施設と浪江の人で集まって住む共同住宅などがある。

アイデア5 地域コミュニティの

賑わいの拠点として整備する診療所

診療所等の医療施設が復興公営住宅団地の中に整備される際、その近くに集会施設や広場などを配置して、さらに、商店などが整備できるようにして賑わいの拠点として整備するアイデアです。

また、サロンやコミュニティ・カフェ、来客者用の簡易宿泊施設などを近接して整備することで、公営住宅居住者に限らず周辺住民が集まれる地域交流の核とすることが可能です。地域の催し物やイベント、防災時の拠点ともなります。



復興公営住宅の中庭に集会所、商店等と併せて診療所を整備した検討模型

アイデア 6

豊かな緑地や公園を確保する為の駐車場配置の工夫

復興公営住宅の駐車場は、1戸あたり1台半程度を確保して、なるべく多くの緑地や公園を確保する工夫をするアイデアです。その他に、みんなが共同で使える来客者用などの駐車場を整備して対応します。

駐車場を芝生化したグラスパーキングなどを用い、適度に分散配置することで駐車場の景観的なインパクトを緩和し、環境に配慮するとともに、非駐車時には広場の一分となるようなデザイン上の工夫で豊かな環境の確保を可能とします。

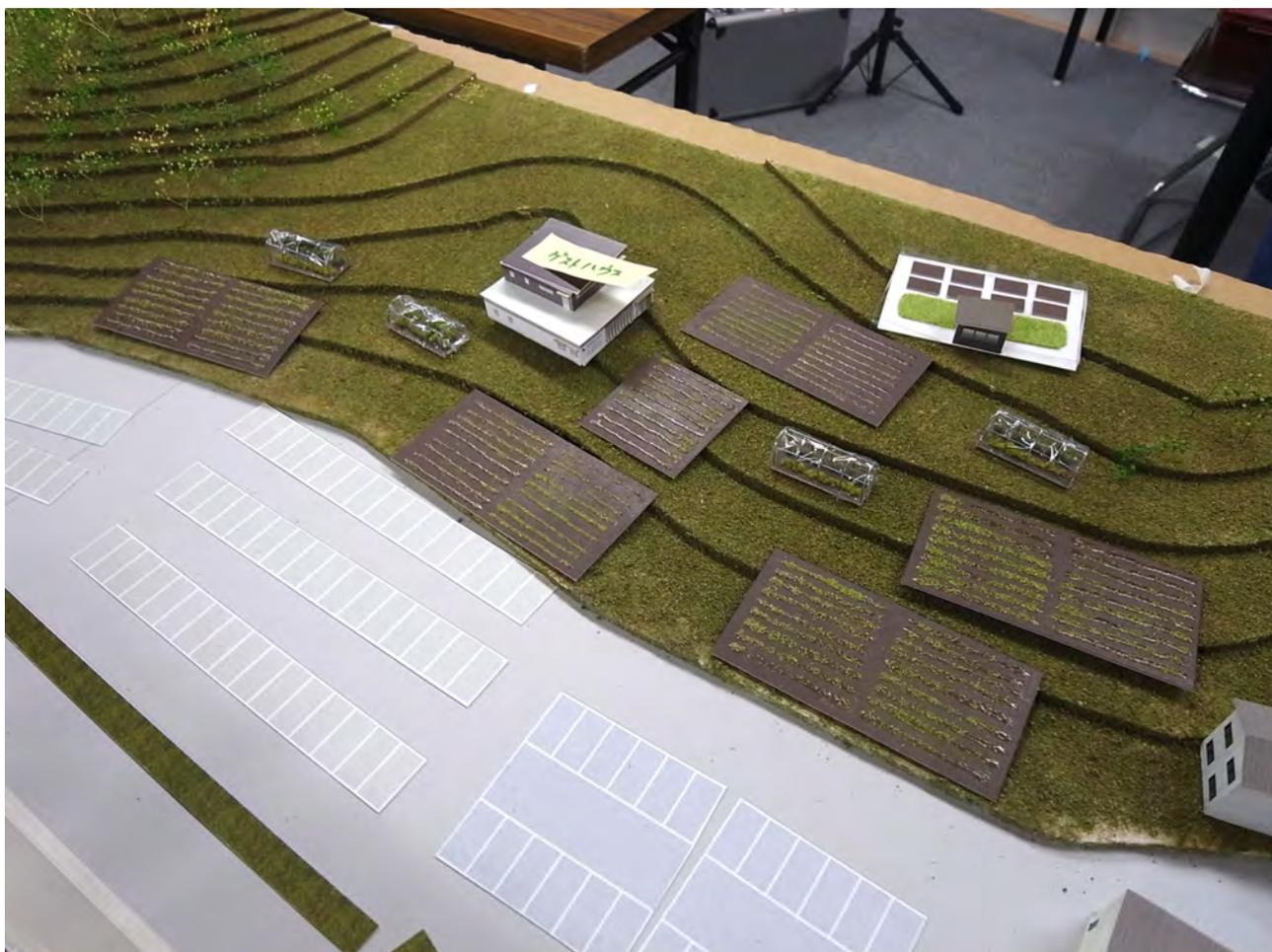


復興公営住宅中庭の広場の一部として配置された駐車場の検討模型

アイデア7

復興公営住宅建設用地北側の斜面空地の多様な活用

復興公営住宅用地の北側の斜面空地を、魅力的な住環境を整える為の憩いの空間として、様々な活用するアイデアです。菜園とコミュニティガーデン、緑の散策路やゲートボール場、パークゴルフ場等を併せて整備し、周辺住民も利用できる地域の commonspace として整備します。出来るだけの多くの土地を有効利用するように工夫します。



復興公営住宅の北側の斜面地の活用を考えた検討模型

アイデア 8 町外コミュニティの建物建設と併せた

住民の移動交通サポートのしくみの整備

現在、安達運動公園仮設住宅団地において、浪江町役場が運行させている定期運行バスのような、移動交通サポートの仕組みを、復興公営住宅の整備と併せて整備するアイデアです。また、こうしたバスの受け皿となるような停留広場や待合室を、公営住宅内の集会所などと併設して配置することで、地域交流の核となる交通拠点整備を可能とします。

アイデア 9 浪江町民が復興公営住宅に

優先入居できるしくみの整備

ここで検討したような魅力的な復興公営住宅が建設され、周辺整備が進めば多くの避難町民が復興公営住宅への入居を希望することとなります。ここに建設される復興公営住宅は、浪江町民、特に二本松へ避難している住民が優先入居できるようしくみを整備するアイデアです。

3. まとめ

この会では、二本松市石倉地区に計画予定の浪江町町外コミュニティを対象に、ジオラマ模型を用いた仮のまちづくりの検討と、意見交換を行いました。結果、町外コミュニティの整備に向けて大きく9つの要望を住民意見として、抽出することができました。

また、参加者の皆さんには対象地域の町外コミュニティ整備後の将来像について自ら検討し、イメージして頂いたという点で、会の目的を達成することができました。

今後は本会で得られた結果を、浪江町復興まちづくり協議会や各種関係する行政機関と共有し、今後の浪江町町外コミュニティのモデルとなるような都市整備の方法に関して、これを1つの議題として検討していくことを予定しています。

資料編 『まちづくりデザインゲーム 町外コミュニティ版』のすすめ方

今回行った「住宅・コミュニティ再建デザインゲーム」は、福島第一原発事故によって分散避難している多くの方々が、今後の仮設住宅を出た後の暮らしや、コミュニティのあり方について、仮想のまちづくり体験を踏まえつつ、意見交換を行う機会の提供を試みたものです。

未だ多くの原発被災者が福島県内の仮設、借り上げ住宅に避難し、また日本全国に散り散りになっている状況があり、こうした住民参加形式のワークショップを他地域でも被災者の皆様の生活復興に役立てるため、ここでは「まちづくりデザインゲーム 町外コミュニティ版」として、その基本的な進め方のマニュアルを紹介します。



4-1 まちづくりデザインゲームの基本プログラム

まちづくりデザインゲーム 町外コミュニティ版は大きく下記の流れで進められます。

1. はじめに、敷地条件やまちの情報の確認
2. 町外コミュニティづくりの目標の設定
3. ロールプレイの役柄の確認、住宅再建やまちづくりのシミュレーション
4. 町外コミュニティの検討内容の振り返りと空間イメージの共有

1. はじめに、会の趣旨の確認と敷地条件のまちの情報の確認

1-1 はじめに、参加者や運営スタッフの自己紹介の後、ワークショップの目的と作業の流れについて説明します。

1-2 検討の対象敷地の基本情報、検討に使うジオラマ模型の内容について説明し、参加者で共有を行います。

(8月6日のワークショップでは、検討の対象地である二本松市油井字石倉地区の概要、そこに整備が予定されている県営の復興公営住宅の戸数や、医療施設に関して基本的な情報を共有しました。)

利用するツール：ジオラマ模型パーツ、航空写真など

2. 町外コミュニティづくりの目標の設定

2-1 次に、町外コミュニティづくりの目標像を設定します。模型を使った検討を進めるためのベースとして、運営スタッフから、町外コミュニティでのまちづくりを検討する上での基本的な考え方を複数パターン示し、参加者の好みで選択してもらいます。

(8月6日のワークショップでは、下記2つの町外コミュニティ整備に関する基本的な考え方を示しました。ここで示した2つの考え方は、NPO 新町なみえがこれまでに行ってきた、ワークショップや意見交換の結果を踏まえて、まとめられたものを利用しました。)

考え方1 低密度で自然豊かな市街環境を整備し、広場や菜園等の従前のライフスタイルを継承できる場の実現をめざした「自然豊かにのんびり暮らせるまち」

考え方2 分散避難している町民がなるべく多く集まって、便利に安心して暮らせる場の実現を目指した「色々な施設が充実しているにぎわいのあるまち」

2-2 選んでもらったまちづくりの目標像に従って、それぞれのグループに別れて頂き、グループごとに模型を囲んでの検討が行いやすうに着席してもらいます。

3. ロールプレイの役柄の確認、住宅再建やまちづくりのシミュレーション

3-1 グループごとに、「ロールプレイの為の役柄プロフィール」と「生活シーンカード」を配布し、趣旨を説明します。いくつかある生活シーンカードの内、好みで数枚を選択して頂きます。役柄プロフィールの内容確認の時間も含め数分時間を儲けます。

3-2 グループごとに1人ずつ、役柄プロフィールの内容を自己紹介して頂き、また選んでいただいた生活シーンカードを発表してもらいます。

3-3 上記を踏まえた、まちづくりの整備のシミュレーションを行います。町外コミュニティに必要な、住宅や各種施設、空間像について、必要に応じて検討項目を儲け、これにそって順次、検討をすすめます。一人ずつ意見を発表してもらい、これに従って、意見に対応したジオラマ模型パーツを敷地土台模型の上に配置していきます。整備の規模、様式、配置などについてその空間や、実現可能性に関して意見を交換します。

(8月6日のワークショップでは、主に次の内容について検討を行いました。①復興公営住宅200戸と診療所の配置、ボリューム、中庭、駐車場などについて、②復興住宅周辺市街地に必要とされる施設、住宅様式などについて)

利用するツール：ロールプレイの為の役柄プロフィール、生活シーンカード、ジオラマ模型パーツなど

4. 町外コミュニティの検討内容の振り返りと空間イメージの共有

4-1 最後に、全体での話し合いを行う席順に戻って頂き、各班の代表者にグループでの町外コミュニティづくりの検討を振り返ってもらいながら、得られた意見やまとめを発表していただきます。CCDカメラ等を用いて、模型映像を投影しながら、町外コミュニティ全体の空間像を参加者全員で共有します。

4-2 各グループの発表が終わった後は、会の全体の総括を代表者が行います。また、デザインゲームの成果をどのようにして実際のまちづくりに反映していくのかの問題提起や今後の方針などについても説明を行い、会のまとめとします。

4-2 デザインゲームのツール

①なりきり人物像カード

デザインゲームを行う上で、自身の立場に固執してしまったり、反対に遠慮してしまうことなく、参加者同士がお互いの立場をふまえて話し合える状況が必要です。参加者は、自身とは異なる背景を持つ、仮の人物像の視点でまちを見るために、このカードに沿った人物像になりきります。

三角折にしてテーブルに置く

※周辺で自立再建を希望
しゅうへん じりつさいけん きぼう

備考：みんなで一緒に商業を再開したい
びこう いっしょ しょうぎょう さいかい

今の住まい：安達運動場仮設
いま す あだちうんどうじょうかせつ

職業：無職 (元飲食店経営)
しよくぎょう むしよく もといんしょくてんけいえい

家族：夫と2人暮らし
かぞく おっと ふたりぐ

西村 洋子 (女) 63歳
にしむら ようこ (に) 63 さい

なりきるための人物設定

過去のヒアリングデータを参考とした、
現実により得るような背景を持つ人物設定

かめだ しんじ
亀田 信二 (男) 82歳

かぞく つま く
家族：妻と2人で暮らしている

しよくぎよう たいしよく
職業：退職

いま す
今の住まい：杉内多目的運動場広場

びごう こうれい すこ せいかつ ふあん
備考：高齢なので少し生活に不安がある

ふっこうこうえいじゆうたく にゆうきよきぼう
※復興公営住宅に入居希望

たかす くみこ
高須 久美子 (女) 34歳

かぞく おっとおさな むすめ さんにん く
家族：夫と幼い娘の3人で暮らしている

しよくぎよう もとのうか
職業：元農家

いま す どうきよう しのめ
今の住まい：東京の東雲借り上げ住宅

備考：みんなで一緒に畑仕事をしたい

しゅうへん じりつさいけん きぼう
※周辺で自立再建を希望

にしむら ようこ
西村 洋子 (女) 63歳

かぞく おっと く
家族：夫と2人暮らし

しよくぎよう むしよく もといんしよくてんけいえい
職業：無職 (元飲食店経営)

いま す
今の住まい：安達運動場仮設

びごう いっしょ しょうぎようさいかい
備考：みんなで一緒に商業再開がしたい

しゅうへん じりつさいけん きぼう
※周辺で自立再建を希望

はたけやま かずえ
畠山 一恵 (女) 70歳

かぞく おっと くら
家族：夫と2人で暮らしている

しよくぎよう せんぎようしゆふ
職業：専業主婦

いま す にほんまつ か あ じゆうたく
今の住まい：二本松の借り上げ住宅

備考：娘夫婦と孫が福島に住んでいる

ふっこうこうえいじゆうたく にゆうきよきぼう
※復興公営住宅に入居希望

まつもと しずか
松本 静香 (女) 54歳

かぞく おっと く
家族：夫と娘の3人で暮らしている

しよくぎよう せんぎようしゆふ
職業：専業主婦

いま す
今の住まい：安達運動場仮設

びごう こうれい はは どうきよ か
備考：高齢の母と同居を考えている

しゅうへん じりつさいけん きぼう
※周辺で自立再建を希望

おおくら まさし
大倉 正志 (男) 67歳

かぞく おっと むすめ にん
家族：妻と娘の3人暮らし

しよくぎよう ほうじん しょくいん
職業：NPO 法人の職員

いま す
今の住まい：安達運動場仮設

びごう かせつ い
備考：仮設のコミュニティを活かしたい

ふっこうこうえいじゆうたく にゆうきよきぼう
※復興公営住宅に入居希望

②生活シーンカード

町外コミュニティにおいて、どのような暮らしを取り戻したいのか、生活シーンをしっかりと持つことが大切です。このカードは、参加者がこの土地で特に実現したい生活シーンを思い描くことを手助けするものです。

多世代で安心できる暮らし



多世代で安心できる暮らし



イベントや食事を
通じて地域交流する

機能：集会所
福祉施設
地区センター

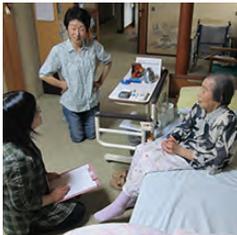
多世代で安心できる暮らし



多くの仲間と共に
ケアサービスを
受けながら暮らす

機能：集会所
福祉施設

多世代で安心できる暮らし



暮らしの不安を
気軽に相談する

機能：出張所
サポートセンター

多世代で安心できる暮らし



安心して
子どもを預ける

機能：託児所
学童保育

地域内や地域間での交流、イベント



地域内や地域間での交流、イベント



まちなかバスで
市街地まで出かける

機能：バス停留所

地域内や地域間での交流、イベント



地域内外で
イベントを
行う

機能：集会所
広場
駐車場
商店

地域内や地域間での交流、イベント



コーヒーを
飲みながら
おしゃべりする

機能：コミュニティ
カフェ

地域内や地域間での交流、イベント



家族や友人
を招いて集まる

機能：集会所
ゲストルーム

しゆみ たの
趣味を楽しむ



趣味を楽しむ



ぎんじよ いっしょ
ご近所さんと一緒に
たいそう
体操をする

機能：広場
公園

趣味を楽しむ



みどり こみち
緑の小径を
さんぽ
散歩する

機能：散歩道

趣味を楽しむ



やさい しよくぶつ
野菜や植物を
そだ
育てる

機能：農地
家庭菜園
共同菜園

趣味を楽しむ



ゆったりと
どくしょ
読書を楽しむ

機能：図書館
読書室

しせつ じゅうじつ べんり く
施設充実の便利な暮らし



施設充実の便利な暮らし



ちいきない
地域内で
か
買い物を
する

機能：囲み型商店
商店街
移動販売

施設充実の便利な暮らし



地域内の商店や
福祉施設で
はたらく
機能：商店
福祉施設

じゅうかんきょう
住環境



住環境



ゆた じゅうかんきょう なか
豊かな住環境の中で
ふるさとのもど
暮らしを
取り戻す

機能：庭付き
戸建て住宅

住環境



きこころ し
気心の知れた
なかま どうし
仲間同士で
たの
楽しく暮らす

機能：共同住宅
高齢者住宅

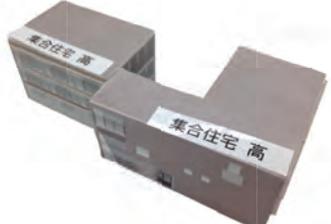
③ジオラマ模型パーツ

町外コミュニティでの生活をより具体的にイメージし、また話し合っ出てきた空間を表現するために使用するものです。住宅や施設の建物と、それらの間や周囲にできる広場や道など細かなパーツがあり、それらを組み合わせて理想のまちを検討、表現します。

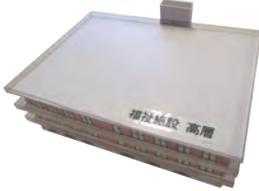
復興公営住宅及びその内部の施設

住宅		福祉・相談室	
図書室		カフェ	
多目的室		住居	
音楽室		商店	

敷地周辺の住宅

戸建て住宅		3戸1住宅	
2戸1住宅		集合住宅	

公営住宅敷地とその周辺の施設

<p>集会所</p>		<p>商店 (中庭囲み型)</p>	
<p>地区センター</p>		<p>商店 (商店街型)</p>	
<p>福祉施設 (低層)</p>		<p>福祉施設 (高層)</p>	
<p>託児所</p>		<p>図書室</p>	
<p>診療所</p>		<p>消防署</p>	

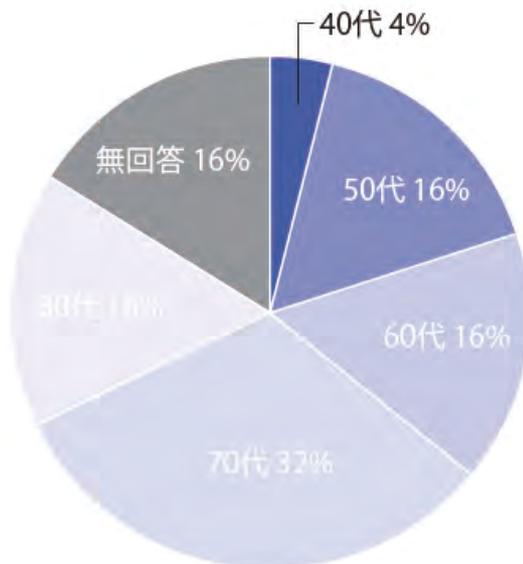
オープンスペース



4-4 アンケート集計

今回のデザインゲームに参加された 45 名の方にアンケート調査を実施した。大半の参加者は安達運動場仮設に在住の方でしたが、福島市大森仮設から 1 名、二本松市杉内仮設から 1 名のかたのご参加を頂きました。現在のアンケート集計率は約 56%であり、今後も回収を進めていく予定です。

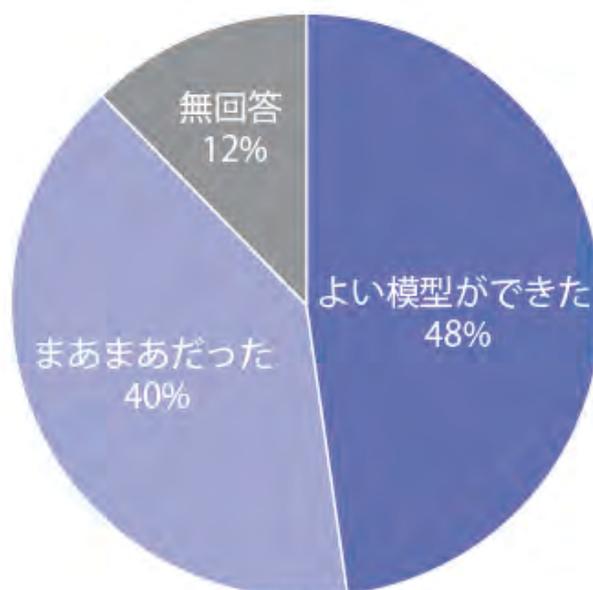
1. 回答者年代



40代：1名
50代：4名
60代：4名
70代：8名
80代：4名
無回答：4名

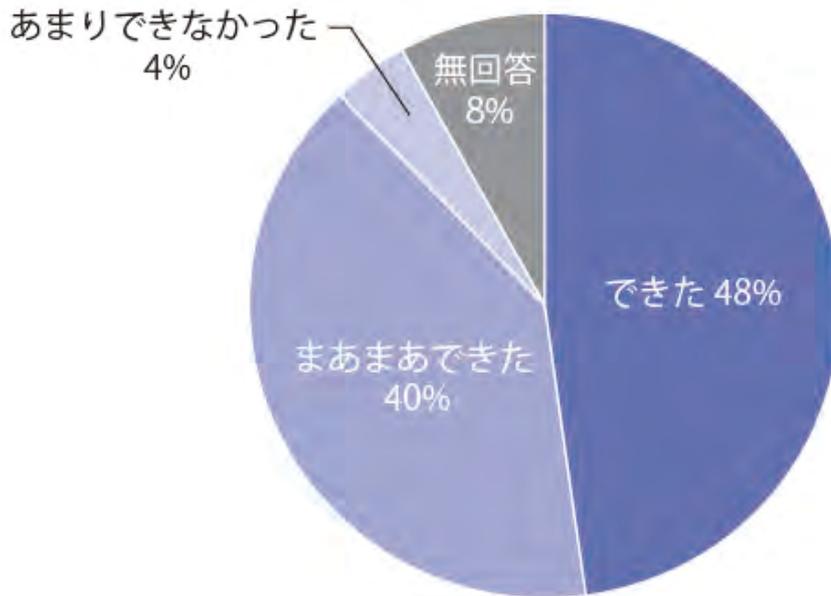
2. できあがった模型はどうでしたか？

よい模型ができた まあまあだった あまりうまくいかなかった



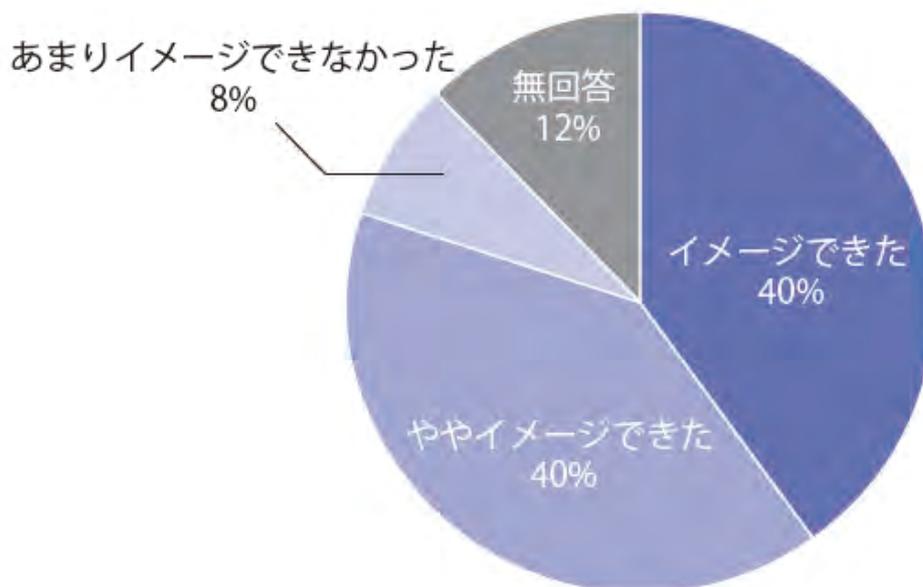
3. 参加者のみなさんと有意義な意見交換はできましたか？

できた まあまあできた あまりできなかった



4. 今後の復興公営住宅や町外コミュニティの実現に向け、具体的なイメージはできましたか？

イメージできた ややイメージできた あまりイメージできなかった



模型を使った住宅再建検討会

建設技術学院跡仮設住宅生活者を基盤とした町外コミュニティづくり体験

— 自立再建を前提とした7つの提案 —



平成27年1月16日(金)

(16:00~18:00)

二本松市建設技術学院跡仮設住宅 集会所

はじめに

今回行われた模型を活用したワークショップの試みは、計画するエリア内セッティングや、施設内のアウトラインを決定するのに役立ちました。大方の人は、絵に描いた「もち」などと笑いますが、私はあくまで実現に向けた行動をしたいと思います。

このプロジェクトは、二本松市内ここだけのものなので、老人から若者までが使用できる施設を目指した素晴らしいものです。

国や県は自分たちより前に計画し、「あてがいブチ」の箱物を現在建設中ですが、そんな箱物よりも、一歩も二歩も進んだ住人同志が助け合える、協働できるコミュニティーゾーンにしたいと考えています。このプロジェクトについて、第二弾目の進め方を御伝受頂ければ幸いです。

国や県が関わる事業になりますので、他の例でもそうである様に困難を極める事になるでしょうが、何んとかがんばりたいと思っています。

今迄、立ち上げたプランの良い所を一つ一つ精査し、学生さん達の持っている今迄のノウハウを御貸し頂きたいと存じます。

二本松市 建設技術学院跡地応急仮設住宅

自治会長 鎌田 優

目次

I

住宅再建検討会の目的と内容

- I-I 検討会の目的 ……(1)
- I-II 検討会の内容 ……(3)

II

模型検討会を行うための条件設定

- II-I 検討会を行う前に～学生案の提示と意見の共有、課題の抽出～ ……(5)
- II-II 背景条件の設定 ……(6)

III

建技仮設生活者を基盤とした町外コミュニティづくりにおける7つのアイデア

- III-I 模型で検討した7つのアイデア ……(11)
 - ① 周辺住民を含めた100世帯コミュニティを目指す
 - ② 息子・娘夫婦を呼んで一緒に住める家
 - ③ 基礎を造り、仮設住宅継続利用
 - ④ イベントなどの交流の場となる中庭空間
 - ⑤ 集会所を残存させる
 - ⑥ 建設技術学院を改修後、多目的に利用
 - ⑦ 高齢者に優しい平屋戸建て・2戸1住宅
- III-II 参加者のコメントまとめ ……(13)

IV

検討会をふまえた町外コミュニティ提案

- IV-I 検討会後のアンケート結果 ……(17)

V

アンケート

- V-I 検討会後のアンケート結果

資料編

I

住宅再建検討会の目的と内容

I-1 検討会の目的

「二本松市所有の既存敷地を活用して住み続ける町外コミュニティの検討」

福島第一原子力発電所事故から3年半以上が経過し、いまでも各地に点在している仮設住宅団地の中には、自治会による近隣運営が行き届き、**良質のコミュニティが育まれているもの**が多くあります。

二本松市にある建設技術学院跡仮設（右ページに記載）もそういった仮設住宅団地の一つであり、自治会運営の中、20弱の世帯の人々が良好な近隣関係を作り、助け合いながら暮らしています。周辺二本松市民とも日常的な交流を持ち、自治体を越えて連携した、**安定的なコミュニティが育ちつつ**あります。しかしその一方で、今後起こりうる仮設再編計画や高齢化による福祉面の整備不足などの課題はこれを再び分散し、損ねてしまう可能性があります。

そこで今回のワークショップでは仮設住民のみなさんの希望する、**住み慣れた仮設住宅団地の敷地を長期的に使用し、避難現状のまとまったコミュニティを維持し、更にこれを充実させる形での、安定的な町外コミュニティづくりを目指した検討**を行いました。

敷地情報

— "建設技術学院跡応急仮設住宅"とは？

□浪江町民で構成される小規模仮設住宅

原発事故から5ヶ月後の2011年8月に、現在の自治会が発足した最大30戸の小規模仮設住宅です。入居者は浪江町民のみで構成されています。現在の入居者は、空き家が増え18世帯、なかでも高齢者が約半分の割合を占めています。そのため、今後仮設再編が行われる場合、対象となる可能性が高いです。



□駅、コンビニに近く、地盤も固い好条件な立地

浪江町民が入居している仮設住宅の中で比較的駅に近く、北にはコンビニや安達ヶ原ふるさと村、南には福祉施設があり、周辺環境に恵まれています。さらに、元々学校の敷地だったため地盤がしっかりしており、再建を行うにはとても好条件な敷地となっています。

□二本松市民とも交流のある、良質な町外コミュニティ

自治会長をはじめとする建設技術学院跡仮設住民のみなさんは、周辺市民の行事などにもボランティアとして積極的に参加するなど交流を図ってきており、地域に溶け込んでいます。この良質な町外コミュニティを保持したいと願う入居者が多く、いまのうちから再建への道筋を示していくことが重要です。



I-II 検討会の内容

今回は、将来のことを踏まえた以下の**4つの大きな流れ**に沿ってワークショップを行いました。

④ WSを行う前に～学生案の提示と意見の共有、課題の抽出～

模型を使った検討会を行う前に、一度学生側で検討した案を住民のみなさんにお見せしました。学生側としては、みなさんの考えや案に対する指摘などからワークショップの方針を検討する材料になり、住民側としては“再建”を空間など具体的なイメージにするためのきっかけとなる重要な機会です。



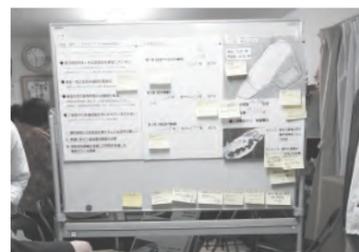
① 会の趣旨、敷地概要の説明と課題の共有

まずは、検討会の目的と進め方について説明を行いました。その上で、二本松市建設技術学院跡仮設住宅の敷地概要、平成26年10月に公表された浪江町民アンケートの結果を踏まえた課題を挙げ、将来的な仮設再編の可能性や医療施設などのサービス面の必要性など基本的な情報を共有しました。



② ワークショップの枠組み・条件の設定

次に、模型を使った検討を進めるためのベースとして浪江町民アンケート（H26.10）などの様々な背景を考慮した計画時期（仮設生活継続→再建開始→福祉面整備）、計画敷地、居住人数、想定費用、建て替えパターンの設定を行いました。



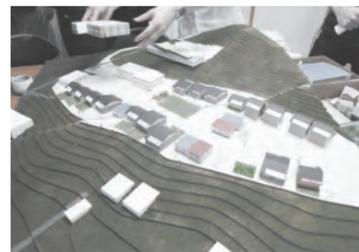
③ ジオラマ模型を使った具体的な再建計画検討と意見交換

ロールプレイにより様々な立場の人物を意識していただきながら、模型を使って意見交換を行いました。具体的には②で決めた計画時期をベースとして、再建の変遷をジオラマ模型を使いながら、町外コミュニティとしての再建計画の時間・空間・暮らしの可能性などを認識・共有しました。



④ 検討結果の全体共有と総括

最後に、このワークショップで得た検討内容のまとめをCCDカメラを使用しながら発表し、参加者全体でのアイデアや意見の共有を行いました。



II

模型検討会を行うための条件設定

II- I 検討会を行う前に～学生案の提示と意見の共有、課題の抽出～

まず住宅再建検討会を行う際の足がかりとして、事前に建設技術学院跡仮設住宅の住民の意見をふまえて学生が考えた「**個々のライフスタイルに合わせた多様な住宅提案**」をご紹介します。以下はその提案内容になります。

個々のライフスタイルに合わせた多様な住宅提案

A 戸建て住宅ゾーン

仮設から移り住むことをきっかけに、離れ離れに住んでいた子ども夫婦や友人と一緒に落ち着きのある暮らしを実現できる。



B 長屋共同住宅ゾーン

仮設住宅で育まれた良好な空間や関係を維持し、ガーデニングなどを楽しみながら暮らすことができる。



C 集合住宅ゾーン

二本松市民も利用できる福祉サービス付き高齢者向け住宅で、程よいつながりを持ちながら楽しく暮らすことができる。

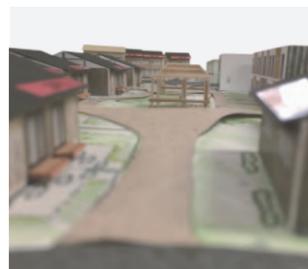


共用空間

- ①中庭
- ②集会所
- ③バス停留所
- ④ゲストルーム
- ⑤散歩道



多世代で住める戸建て住宅



中庭を囲む長屋共同住宅



サービス付き高齢者向け住宅



見通しの良い共用空間

II- II 背景条件の設定

模型を使った検討を行う前に、まずは**いまみなさんが置かれている状況**について整理しました。その上で**再建の未来計画と敷地計画範囲、再建プラン**について一緒に考え、決定したものが以下のとおりです。

① 現状

デザインゲームを始めるにあたり、**現状の確認とそこから導かれる条件を整理**します。

(平成 26 年 10 月 浪江町によるアンケート結果より)

- **浪江町民の中で公営住宅以外を希望している人が多い。**
 - ・ 60 歳以上の 65% が公営住宅を希望しない、判断できないと回答
 - ・ 公営住宅の 340 戸に対し、二本松に住む浪江町民の 240 世帯のみが入居希望
- **仮設・借上住宅を継続利用したい町民が多い。**
 - ・ 「帰還しない場合に**必要な支援**」に仮設・借上住宅の**継続利用が 43.2%**
- **仮設住宅の耐用年数には期限がある。**
 - ・ 仮設住宅の耐用年数：基本 2 年（1 年毎の延長は認められている）
 - ・ 財務省の「減価償却資産の耐用年数」より、**仮設住宅は 7 年が最大**と指定。
- **高齢のため福祉サービスを必要としている町民が多い。**
 - ・ **福祉関連による不安や希望するサービス**に意見が集中



前提条件の整理

- I. 建技仮設に公営住宅を建てることは非常に難しい**
- II. 再建にあたり福祉サービスの整備が必要**
- III. 仮設住宅再編を考慮して時間を意識した再建プランが重要**

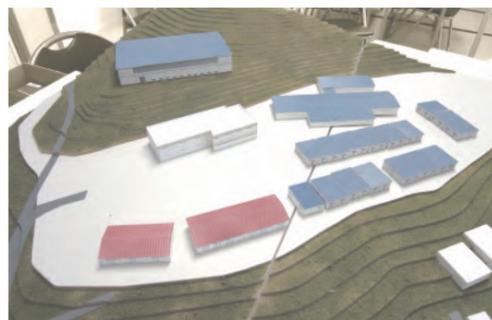
② 計画時期構想

①で整理した3つの大きな前提条件を踏まえた上で、**重要と考えられる3つの時期**（現在の生活継続収束時期、再建を開始・収束する時期、福祉サービスが充実した施設を整える時期）についてみなさんと構想した結果が以下のとおりです。

計画1【仮設生活の収束時期】

現在 年 ~ 2021 年

空き家を活用するなどして仮設生活の質を高めつつ、長くなり、遅くなくても2021年までには仮設住宅での生活の収束を目指す。この年になっても浪江への帰還は難しいと予想されることから**早めの再建計画**を進める。



計画2【住宅再建開始～完了時期】

2018 年 ~ 2028 年

2年後を目処に再建に着手していく。素早く再建を完了させるために**半々を一斉に着手する**（右ページ参照）。完了してからは浪江町に訪れたり、ここに戻るなりを繰り返す二地域居住をしながら、計画を着実に進めていく。



計画3【福祉サービスの整備開始～完了時期】

2018 年 ~ 2022 年

二本松市で構想している福祉整備の土地をここに選定、施設を配置することで**二本松市民も共同で利用可能**にし、交流を深めていく。



③ 計画敷地・費用・プランの設定

①で前提、②で計画時期を決定し、それらを踏まえて最後にその**計画範囲と条件**（どの程度のコミュニティを目指すのか、どのくらいの費用でどう計画を進めていくのか）をみなさんと共有したのが以下のとおりです。

【計画範囲・費用の設定】

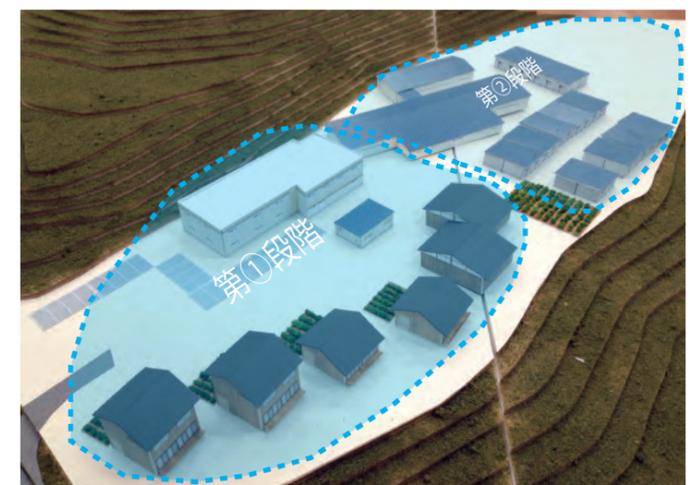
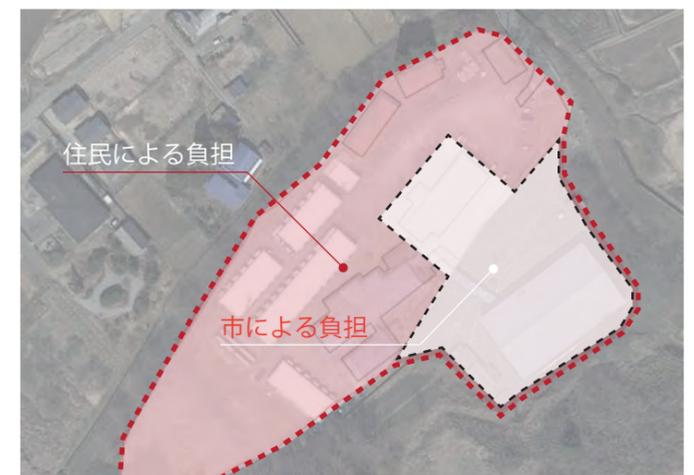
- 想定世帯数 **100未満** 世帯
- 敷地面積 **8,000** m²
- 敷地地価 **5,000** 万円
- 坪単価 **60** 万/坪

二本松市民や周辺仮設の住民と協働の再建計画ということで100世帯未満の中規模を設定しました。一部を福祉サービスを整備する場所として二本松市に負担していただくことで二本松市民、浪江町民お互いに利用できる体制を整えます。

【再建事業プランの設定】

“50%-50%再建計画”

建設技術学院跡仮設住宅に住まわれているみなさんの高齢化率が高いため、早めの再建完成を目指します。具体的な計画としては、まずは計画範囲の50%を住居空間と福祉サービス施設空間として再建を進め、完了したら残りの50%を進める、極めて単純で着手しやすいものです。福祉サービスが整うことで市民利用者が増加し、**二本松市の福祉拠点として活性化**していくことを期待しています。



Ⅲ

建技仮設生活者を基盤とした

町外コミュニティづくりにおける7つのアイデア

III-1 模型で検討した7つのアイデア

検討会では、背景条件をふまえた様々なアイデアや意見が挙げられ、模型に反映させていきました。デザインゲーム以前の話し合いも含めたそのすべてをまとめたのが、以下の7つのアイデアです。

Idea ① 建設技術学院を改修後地域住民も含めて多目的に利用していく

元建設技術学院校舎をリノベーションし図書室などの多目的な利用に再活用する。また、上層にある体育館はサポートセンターとリハビリセンターを混合配置し、周辺住民も利用できる地域の福祉拠点となるアイデアです。

建設技術学院校舎と体育館

入り口付近に年齢層が高い住民が住む建物を配置することで高齢者に優しい団地を目指す。また、見晴らしが良く桜並木があり、安らぎの空間となっている。比較的年齢層が若い住民は奥に配置することで、動線上で自然と高齢者とのふれあいが生まれるような仕組みとなっている。

Idea ② 基礎を打つことで仮設住宅を継続利用する

建技仮設住宅は断熱効果が高く、住み心地も他の仮設住宅より格段に良いため、基礎を打ち恒久化することで再建なく安く暮らしを続けることができるアイデアです。

Idea ③ イベントなどの交流の場となる中庭空間を配置する

様々な形態の住居が建ち並ぶ空間の真ん中に中庭を配置することで親しみやすい場所を演出し、イベントなどの交流拠点となるアイデアです。

Idea ④ 高齢者に優しい平屋戸建・2戸1住宅

仮設でできたコミュニティの継続を目的として、平屋で、空間的なつながりのある住居を建てることで、高齢者が利用しやすく、費用も抑えられ暮らせるアイデアです。

Idea ⑦ 周辺地域住民を含めた100世帯コミュニティを目指す

計画地に段々と住居空間を延長させていき、最終的に建設技術学院跡仮設住民と二本松市民、周辺仮設住民が多世代で共生できる受け入れ態勢を整えることで持続可能なコミュニティをつくるアイデアです。

Idea ⑤ 仮設コミュニティを育んだ集会所を残存していく

仮設住宅同様、集会所の造りも非常に質が高く居心地がよく、現在は仮設住民のコミュニティの中心として毎日のように利用されているため、基礎打ちをして安く、引き続き休憩スペースとして利用するアイデアです。

Idea ⑥ 息子・娘夫婦を呼んで一緒に住むことができる住宅

再建をきっかけに、震災で分散避難してしまった家族を呼び戻したい住民の方もいます。これは、高齢者は若者がいる安心でき、若者は子どもを親に預けることができる多世代で暮らせるアイデアです。

各ステージの再建デザイン

STEP1. 様々なニーズに対応した多様な住宅の整備



STEP2. 仮設住宅の建替と改修による継続利用



STEP3. 二本松市と共同で活用する福祉施設



※検討会の最終成果物である模型写真に加筆して作成
※ 模型は 1/200 サイズ

Ⅲ-Ⅱ 参加者のコメントまとめ

検討会では、参加者の方々に下記の人物になっていただき、様々な立場から再建について意識していただき、意見交換を行いました。会で挙げられた**意見のまとめ**が以下のとおりです。

ロールプレイキャラクター①

丹波 知幸 60代(男性)



家族構成：妻、県外に息子夫婦
 職業：元漁師
 今の住まい：建設技術学院跡仮設住宅
 将来像：いまのコミュニティが良好なので、維持していきたい

「建設技術学院は介護施設として活用したい。また、二本松にはジムがないので、体を動かしたい若者も参加できる、有料ではあるが、そのような**スポーツジムの整備したい。**」「この敷地で**200世帯のコミュニティ**にしたい。別の場所に移りたくないひと多い、且つ二本松のアパートは高い。」「H29年3月に避難解除をする予定だが、現状難しい。仮設での生活が長くなる可能性がある。」「既存の二本松市の建物を持ってきて、**周辺の住民や二本松市全体、浪江の人が一緒にリハビリできる**といい。」「**絆とか全体感がずっと続**けていきたい。」「とにかく今は子どもがいない。子どもが入ってくると和やかになっていい。」「**半公共的なサービスが受けられるなら安いし非常に嬉しい。**」

ロールプレイキャラクター②

岡崎 裕子 70代(女性)



家族構成：県内に息子夫婦、
 県外に娘夫婦
 職業：元専業主婦
 今の住まい：建設技術学院跡仮設住宅
 将来像：子供世帯を招いて、一緒に暮らしていきたい

「二本松市にお世話になったので、**今後生涯暮らしていきたい**と考えている。」「安達太良山は綺麗に見えるので、ここで露天風呂をつくったりして、そんな余生を暮らしていきたい。ここに**住み続けていきたい。**」「**少しでも顔の知っている人と一緒に住みたい。**」「浪江町役場が今の場所に立派な役場を建設したのを見て、浪江町に帰れないと思った。」「**少し想定の実現と違う。**」「今のところでも十分だが、誰か来た時に泊めるところがあればと思う。」「**ローンがあるため平屋より2戸1。**」「桜は女子大生と一緒に遠くから見た方がいい。毛虫は多いし、落ち葉も多い。」

ロールプレイキャラクター③

沖田 早苗 70代(女性)



家族構成：夫、県内に息子二人
 職業：専業主婦
 今の住まい：二本松市内
 将来像：老後を考えてケアなどが充実した安心な暮らしをしたい

「仮設住宅の耐用年数は7年だが、この仮設には**基礎がないので、基礎を打てば普通の住宅と同じくらい長く住むことができる。**」「浪江町の立派な役場ができたことに驚いた。男女共生センターを借りておけばよかった。」「**二本松市としても、建技本館と体育館をどのように使っていくか悩んでいるところなので、ここをうまく利用していくのは望まれる。**」「建物の造りそのものは他の仮設よりもしっかりしている。残していったってなんの支障もない。基礎を作るやり方はいいと思う。基礎作れば20年は住める。住んでいけばもっと住んでいける。」「この**建設技術学院は二本松でアクセスはいいからここにサービスがあるとみんな来やすいのではないか。**」

ロールプレイキャラクター④

星野 茂美 60代(女性)



家族構成：県外に娘夫婦
 職業：元農家
 今の住まい：旧平石小学校仮設住宅
 将来像：公営住宅ではなく、自立再建して楽しく暮らしたい

「やはり戸建てが欲しい。一番早く住める場所がいい。」「**できるだけ早く住み始められるような場所に**住みたい。それが入り口付近なら入り口に、奥の方なら奥の方で、戸建て二階建てが欲しい。」

※音声データが不明瞭なため一部のみ掲載

ロールプレイキャラクター⑤

加藤 将太 40代(男性)



家族構成：妻、娘、息子
 職業：サラリーマン
 今の住まい：二本松市内
 将来像：戸建てが欲しく、ゆくゆくは親世帯を呼んで一緒に暮らしたい

「いくらですと言われるのはあれだけど、**ボンとお金を出しなさい、と言われても難しい。**」「希望は今の部屋の2倍あるなら角地にある平屋で戸建て。」「**体育館を少し小さくして福祉機能を入れてもいいかもしれない。**」

※音声データが不明瞭なため一部のみ掲載

ロールプレイキャラクター⑥

増尾 隆弘 70代(男性)



家族構成：独身
 職業：元機械工
 今の住まい：建設技術学院跡仮設住宅
 将来像：高齢だからこそ友達や近隣と助け合いながら暮らしていきたい

「**戸建ての平家**がいい。」

※音声データが不明瞭なため一部のみ掲載

IV

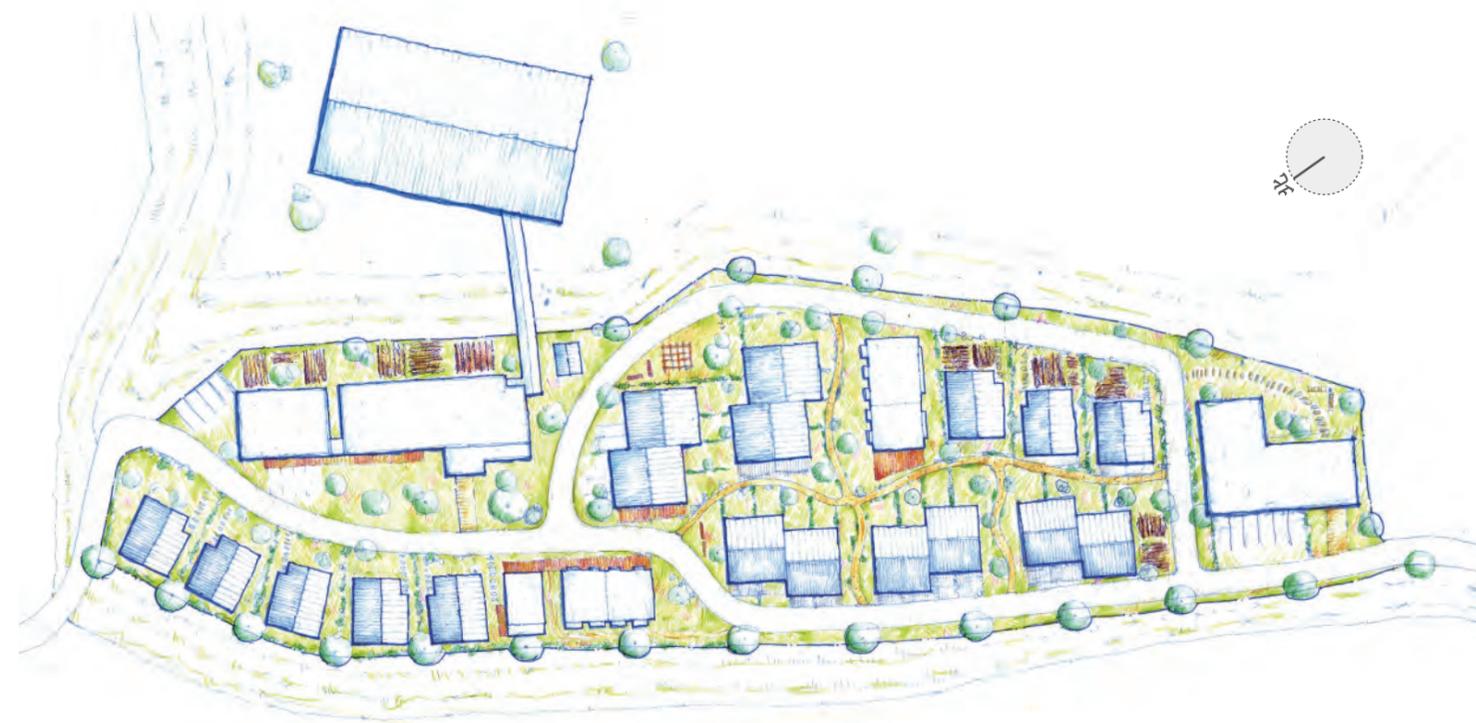
検討会をふまえた町外コミュニティ提案

IV-1 検討会を踏まえた町外コミュニティ提案

今回行われた検討会の結果を踏まえ、抽出された意見をもとに、**建設技術学院跡仮設住宅の新たな町外コミュニティの提案**を行いました。以下が提案内容になります。

敷地の経緯と現状の整理

- ・元々市の高校跡地に建設された建設技術学院が更に、廃校になり、**空き地となっていた場所**。
- ・環境がよく、市営住宅の建設候補地となったこともあり、**住宅地としての利用価値は高い**。
- ・市はこの地域を**総合福祉ゾーン**として位置づけており、周辺にも福祉施設が建ち始めている。

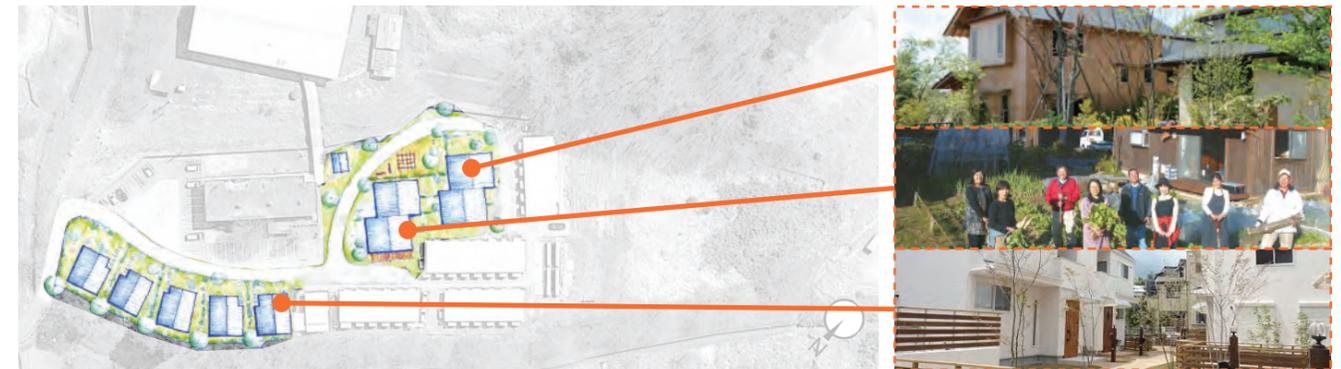


計画提案

本計画は、比較的小規模な仮設住宅コミュニティの更新方法に関する**提案**です。住み慣れた敷地活用しながら、現状のまともりある近隣関係を維持し、**二本松市と連携しながら**、すまいを充実させていくことで、**安定的な町外コミュニティを整備**します。

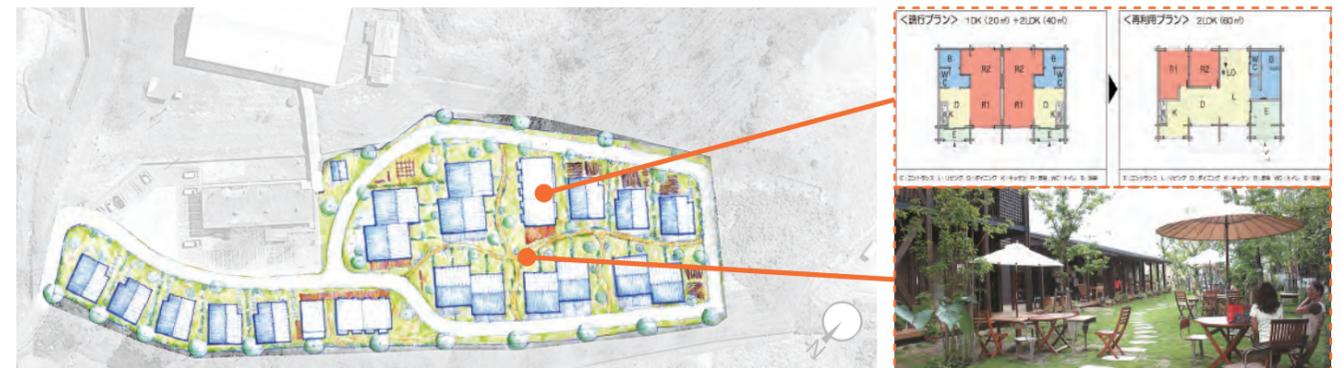
1. 様々なニーズに対応した多様な住宅の整備

現在は独居世帯、2人世帯が多い。家族を呼んで暮ら暮らしたり、若い世代が住もうための戸建住宅、農地の環境を活かした菜園付き住宅。仮設住宅を空間を踏襲した比較的安価な2戸1住宅など、多様な住宅を整備する。



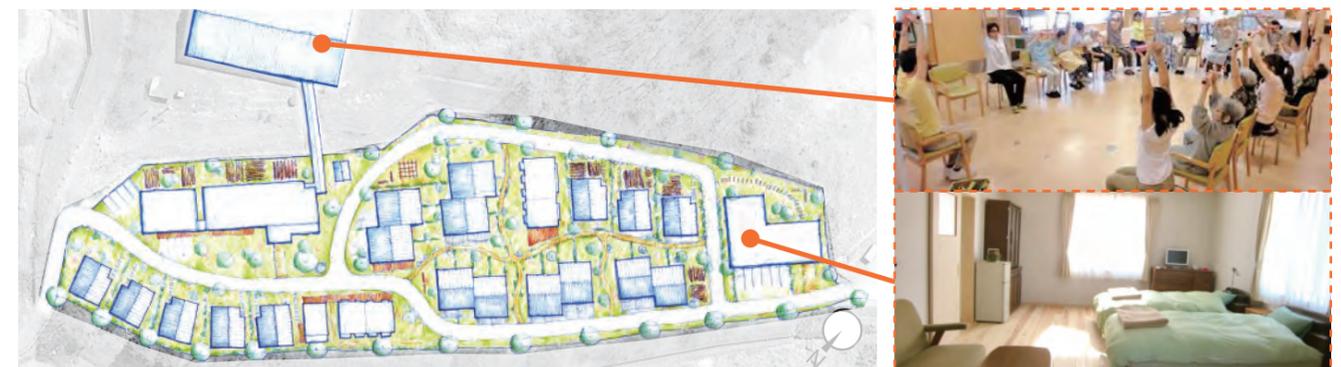
2. 仮設住宅の建替と改修による継続利用

県議仮設の現状仮設建物はつくりがよいため、すべて取り壊すのではなく、基礎の打ち直しや2戸分を1戸として一体化するなどの改修を行った上で公営化し、安価に住居を借り受けたい人は住み続けられるようにする。集会場も継続利用する。多様な住宅が囲んでつくる共同の中庭や通路を囲んだ配置で、地域の一体感のある住宅整備。



3. 二本松市と共同で活用する福祉施設

既存の建設技術学院建物を福祉施設に改修、体育館を耐震改修しリハビリも兼ねた運動施設として活用する。また、周辺二本松市民と共同で利用できるサービス付き高齢者住宅などを整備する。



資料編目次

I

シナリオ

I-I ワークショップのシナリオ本

II

ツール

II-I 背景条件設定パネル

II-II ロールプレイキャラクター

III-III ジオラマ模型

※この報告書の資料編には実際に使用したツールをそのまま載せています。より詳細な情報が必要な方は「早稲田大学佐藤滋研究室 HP→プロジェクト紹介→浪江→報告書」にアクセスして「住宅・コミュニティ再建デザインゲーム」をご覧ください。

http://www.satoh.arch.waseda.ac.jp/satoh_lab/modules/project/namie/info.html

建設技術学院跡仮設住宅デザインゲームシナリオ

日時：2015年1月16日 16:00～

場所：建設技術学院跡仮設住宅集会所

目次

0. 準備
1. 挨拶
2. 全体説明
3. デザインゲーム枠組み設定
4. デザインゲーム開始、ロールプレイ
5. 再建ゲーム Phase I
6. 再建ゲーム Phase II
7. 再建ゲーム Phase III
8. 再建ゲーム Phase IV
9. まとめ

0. 準備

1時間前（15:00）現地到着し、準備をする。

- ・スタッフ名札装着
- ・机の配置＜受付＞
- ・名簿設置＜受付＞
- ・次第＜受付＞
- ・土台模型の設置、ストック模型の設置＜会場＞
- ・各資料、ペンを6名配布＜会場＞
- ・プロジェクター＜会場＞

■メンバー

ファシリテーター1名、ファシ補助1名、書記1名（録音&付箋 or パワポ）、撮影&雑務1名

16:00～16:05

1. 挨拶

▽開会

- ・NPOより
- ・先生より

2. 全体説明

▽スタッフ挨拶

▽ワークショップ（デザインゲーム）を行う意図と目的

——もう少しで4年が経とうとしている。公営住宅で住みたい、浪江に近い南相馬で住みたいといった町民の方もいれば、仮設で育まれた密接で良好なコミュニティを維持し続けたいという方もいる。建設技術学院の仮設に住まれている方々はその一つである。移住と比べて、仮設の土地で住み続けるには仮設の期限などもあって課題が多い。しかしだからこそ今のうちから、ここに住み続けるための方法と住まい方、どんなコミュニティで住みたいかのアイデアを考えることは重要。

▽建設技術学院跡仮設の概要と課題（パネルで常に見えるところに置く）

概要

- ・二本松市では比較的駅に近い。スーパーも近い。
- ・建技コミュニティは強く、周辺とも良好な関係。

課題

- ・仮設再編（コミュニティの崩壊）
- ・多様な生活スタイル（公営、市外、戸建て、仮設維持、または単世帯、多世代など）
- ・用地の権利、取得

▽これから行うデザインゲームについて

——条件の決定、ロールプレイ、暮らし検討

『今日はさきほども言いましたが、ここに住み続けるための方法と住まい方、どんなコミュニティで住みたいかのアイデア出しが目的ということで、模型を使った検討を行います。最終的には学生案のようなものを目指したいと思いますのでみなさんどんどん模型を触って試行錯誤して行って、より思いの詰まった案を完成させていただきたいです。』

3. デザインゲーム枠組み設定

※事前に席にそれぞれロールプレイカードを配布しておく

▽居住人数、計画面積範囲、建て替えパターンの決定（設定パネル×3を用意）

——まずは再建構想を考えていくために全体の枠組みを設定していく。最初に3つのパネルの流れを説明。

■再編を踏まえた今後の生活パターンの想定

平成26年10月に浪江町で行ったアンケート（対象約6,000世帯）より

- ・60歳以上の65%が公営住宅を希望しない、判断できないと回答→現在の生活を継続もしくは移住
- ・二本松市内に住む浪江町民の240世帯が公営住宅に入居希望（総数340戸計画）→公営住宅の空き家率の増加
- ・「公営に希望するサービス」「入居判断しない理由」「町に帰還する場合の条件」「帰還しない理由」すべての回答の上位に福祉関連事項→高齢化、福祉面の不安
- ・「帰還しない場合に必要な支援」に仮設・借上住宅の継続利用が43.2%→現状の継続利用

また仮設住宅の耐用年数を調べてみると

- ・仮設住宅の耐用年数は基本2年でそこから1年毎の延長が認められているが、阪神大震災の際は最大5年だったので、今回はそれを超過する可能性が高い。しかし財務省の「減価償却資産の耐用年数」より、仮設住宅は7年が最大と指定されている。→あと3年を目処に仮設住宅の再編の可能性が出てくること
が想定される

↓

- 1 建技仮設に公営住宅は難しい
- 2 福祉面の整備が必要
- 3 時間を意識した再建プランが重要

居住パターンはいくつかある

- | | |
|-----------------------------------|-----------|
| <居住パターン1> 浪江町に還る | →可能性として低い |
| <居住パターン2> 公営住宅に移住する | →一部いるかも？ |
| <居住パターン3> 周辺もしくは市外に定住する | →一部いるかも？ |
| <居住パターン4> 建技敷地に土地を定期借地または購入し、再建する | →意向より大半 |

→今回は意向どおりパターン4（住み続けること）を目的として進める

『定期借地が安くていい。でも購入したい場合はそれでも構いません。』

■■敷地面積の再説明（パネル、下に書き込み欄あり）

- ・敷地は 10,000 m²
- ・地価は将来的に高騰するとして 10 万円、坪単価は 60 万円
- ・大雑把に面瀬で計算（2 階建ては倍）と設定

■■■フェーズの設定（建て替えパターンに合わせてパネル用意、年数は書き込み）

『最後にどのくらいの年月を目標に実現するか決める』

ex)

- | |
|---|
| <p>□現在～3年後未満（～2018年8月未満）
【仮設での生活を継続】</p> <p>□3年未満～3年満期（～2018年8月）
【居住パターン選択の岐路】</p> <p>□3年満期～5年（2018年8月～2020年）
【住宅再建】</p> <p>□5年～10年（2020年～2025年）
【福祉面の整備】</p> |
|---|

※学生案を提示して目安にさせていただく。条件パネルも活用

■■■■居住人数の設定（パネルに書き込み）

- A：～20世帯（建技の人たちがほとんど）
B：～40世帯（建技の人＋周辺^④＋他仮設^④）
C：～60世帯（建技の人＋周辺^⑥＋他仮設^⑥）

※学生案を簡単に説明しながら目安にさせていただく

ex)学生案は 60 世帯の設定、1 世帯地価約 500 万円

■■■■■計画面積範囲の設定（地図を印刷しておき、パネルに範囲書き込み）

- ・居住人数に合わせて面積と、それに伴う 1 世帯あたりの費用を算出
- ・確認をとりながら居住人数と面積、費用を修正

■■■■■■建て替えパターンの設定（各パターンをシールにして、パネルに貼れるようにしておく）

『いい仮設でも耐用年数を考えると最終的に建て替えが全てに必要なになるが、それにもいくつかのやりかたがあると思う。どれがいいのか？』

a：一斉建て替え メリット…早期実現

デメリット…建設が終わるまでの間の住まいが必要、費用を早急に用意する必要、予定住民全体での合意形成が必要

4. デザインゲーム開始、ロールプレイ

▽ロールプレイ開始

—— 6人の仮想人物（仮設住宅3名、二本松市民2名、他仮設1名）自己紹介

※ 役になりきって頂きたいが、自分の意見が入っても構わない。建技の人はお互いを知っているから遠慮する必要もない

※ 二本松、他仮設の人の立場を考えるということは重要

デザインゲームロールプレイキャラクター一覧

	所属	名前	年齢	性別	家族構成	職業	将来像
1	建技		70代	男性	独身	元機械工	高齢だからこそ友達や近隣と助け合いながら暮らしていきたい
2	建技		60代	男性	妻、息子夫婦は県外	元漁師	いまのコミュニティが良いので、維持していきたい
3	建技		70代	女性	息子夫婦は県内 娘夫婦は県外 夫は他界	元専業主婦	子供世帯を招いて、一緒に暮らしていきたい 戸建てを欲していて、ゆく
4	二本松		40代	男性	妻、娘、息子	サラリーマン	ゆくは親世帯を呼んで一緒に暮らしたい
5	二本松		70代	女性	夫、二人の息子は県内	専業主婦	老後を考えてケアなどが充実した安心な暮らしをしたい
6	他仮設		60代	女性	夫は他界、娘夫婦は県外	元農家	公営住宅には入りたくない

5. 再建ゲーム Phase I

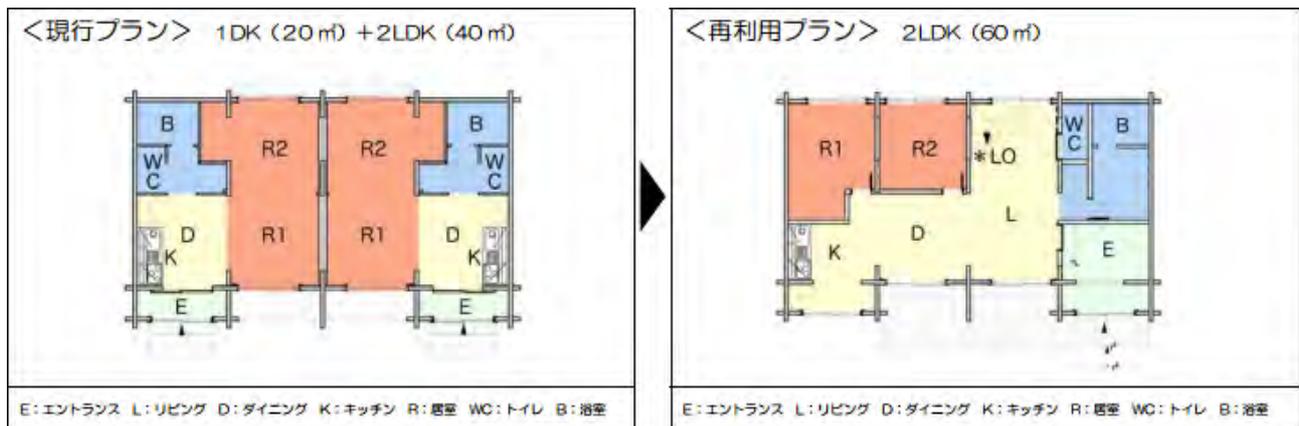
▽ Phase I :【仮設での生活を継続】

※半分 or 段々のパターンの時使用

- ・ 仮設改修
- ・ 空き家利用

『アンケート結果から継続意向が多いことや、建技の仮設は質が高く引き続き仮設を利用していききたいという意見があった。これを考慮して、いまから約3年間は住環境を改善していくことを考えていきたい』

『仮設住宅内の間仕切り壁を取り外し、2部屋使用することや、空き家を取り払い中庭空間にするといったことも考えられる』



(↑ 2部屋利用の参考図面 ※福島県木造仮設住宅改修の方法より抜粋)

仮設内の空間改修の意向や、中庭空間に希望があれば模型を使用

5. 再建ゲーム Phase II

▽Phase II : 【住宅再建】

- ・ 仮設住宅の購入（もしくは無償譲渡）、恒久化
- ・ 仮設定住者の住宅再建（2戸1）
- ・ 賛同する周辺仮設居住者の移住
- ・ 地元住民または仮設居住者親族の戸建て建設

『では仮設住宅の改修を終え、数年ですが前より快適に住むことができ、次に住宅再建時期に突入したと仮定しましょう。』

■集会所：前回のお話で集会所を残すという意見があったため、ここから開始

『集会所を残していきたいという意見が以前出ましたが、やはり残したいですか？』

『だれが所有することにしますか？その場合この程度の費用がかかりますがいいですか？』

□元漁師さんに質問する…<コミュニティ維持の方法>

↓

■■仮設の購入、恒久化：購入したい人、基礎を打ち継続利用したい人はいるのか？

『現在よりさらに〇〇年経ってだいぶ老朽化してますが、そのまま仮設に住み続けたいと思う人はいますか？』

『どのくらい持つんですか？』

□元機械工さんに質問する…<助け合いなら仮設が便利？>

↓

■■■2戸1：仮設の延長としてより室内環境が整った共同住宅もあるが希望は？仮設材料は再利用は？

『仮設の延長として共同住宅がありますが、建て替えてそこに住みたい方はいますか？』

『やはり暖かいここの断熱材を再利用したいですか？』（これは建技住民として質問）

□元農家さんに質問する…<他仮設でも共同住宅に住める？どんなものが住みやすい？>

↓

↓

■■■■戸建て建設：息子夫婦と住みたい人は？若者をどこに誘致するのか？

『やはりみなさん浪江では戸建てで多世代で住む方が多かったこともあり、戸建ての希望もあると思いますがいかがですか？』

『戸建て2階だと値段が上がりますが大丈夫ですか？』

『戸建て1階で高齢で住みたい方はいますか？』

□元専業主婦さん、サラリーマンさんに質問する…<若者の入居はあるのか？どんなものがあれば住みたいと思うのか？>

□専業主婦さんに質問する…<高齢での戸建て希望は？やはり福祉のあるもの？>

↓

■建技の利用方法：住民が希望する建技の機能とは？（この時点で残っていたら）

『建技はどうしますか？』

5. 再建ゲーム Phase III

▽Phase III : 【福祉面の整備】

- ・ 建技入居者、地元住民の高齢化対策（サ高住など）

『建技住民のほとんどが高齢者、半数が後期高齢者、半数が男女ともに一人暮らしということで、みなさんは若くて70歳を超えているという状況になっています。そろそろ本格的に福祉的な機能が欲しくなっていると思いますが、どういったものが必要なのか考えたいと思います。』

■サ高住の検討：サポートのある高齢者共同住宅は必要？相談所程度でもいいのか？

『サービス付き高齢者住宅のようなものがありますが、必要ですか？』

『こんな大きなものは実現できるかわからないし、それだったら最後までみんなで助け合いながら暮らしていきたいという意見はありますか？』

□専業主婦さんに質問した内容をもう一度出す…<サービスの形態はどうすべき？>

5. 再建ゲーム PhaseIV

※～CCDで確認～

——ファッション or ファッション補助が出た意見を反省しながら説明し、反応を伺う。必要ならすこし改善する。

▽その他機能配置開始

- ・図書館、バス停留所、東屋など

『生活の機能として、例えば図書室とかバス停、東屋などはほしいですか？』

▽植栽配置開始

- ・木、庭、畑、花など。道も決定する

『最後にいい空間にするために道の決定と植栽などを置いていきたいと思います。みなさんご自由にどうぞ』

6. まとめ

※：5分休憩（この間に会長とまとめの打ち合わせ）

▽まとめ発表：会長より

——学生は CCD を操作。会長には指示棒を使って説明していただく

▽総括

- ・先生より
- ・NPO より？

終わり次第片付け、撤収

建設技術学院跡仮設住宅概要



▼敷地情報

住所：福島県二本松市安達ヶ原1丁目55-1

敷地面積：約10000㎡

自治会長：鎌田優

世帯数：18世帯

既存建物：建設技術学院廃校建物

▼特徴

- ・二本松市内仮設では比較的駅・スーパーが近い
- ・建技コミュニティは強く、周辺とも良好な関係

▼課題

- ・小規模なため仮設再編の可能性
- ・高齢化
- ・用地の権利、取得

①背景・条件 — デザインゲームを始める前に —

※ デザインゲームを始めるにあたり、現状の確認とそこから導かれる条件を整理します。
(平成26年10月 浪江町によるアンケート結果より)

● 浪江町民の多くが公営住宅を希望していない。

- ・ 60歳以上の65%が公営住宅を希望しない、判断できないと回答
- ・ 公営住宅の340戸に対し、二本松に住む浪江町民の240世帯のみが入居希望

● 仮設・借上住宅の継続利用意向

- ・ 「帰還しない場合に必要な支援」に仮設・借上住宅の継続利用が43.2%

● 仮設住宅の耐用年数には期限がある。

- ・ 仮設住宅の耐用年数：基本2年（1年毎の延長は認められている）
- ・ 財務省の「減価償却資産の耐用年数」より、仮設住宅は7年が最大と指定。

● ご高齢のため福祉面を気にかけている方が多い。

- ・ 福祉関連による不安や希望するサービスに意見が集中



I. 建技仮設に公営住宅を建てることは非常に難しい

II. 再建にあたり福祉面の整備が必要

III. 仮設住宅再編を考慮して時間を意識した再建プランが重要

②時期の設定

第1期【仮設での生活を継続】

～ 年 月ごろ

メモ

第2期【住宅再建】

年 月ごろ～ 年 月ごろ

メモ

第3期【福祉面の整備】

年 月ごろ～ 年 月ごろ

メモ

③計画・費用の設定

地価 10万/坪
坪単価 60万/坪

●想定世帯数 _____ 世帯

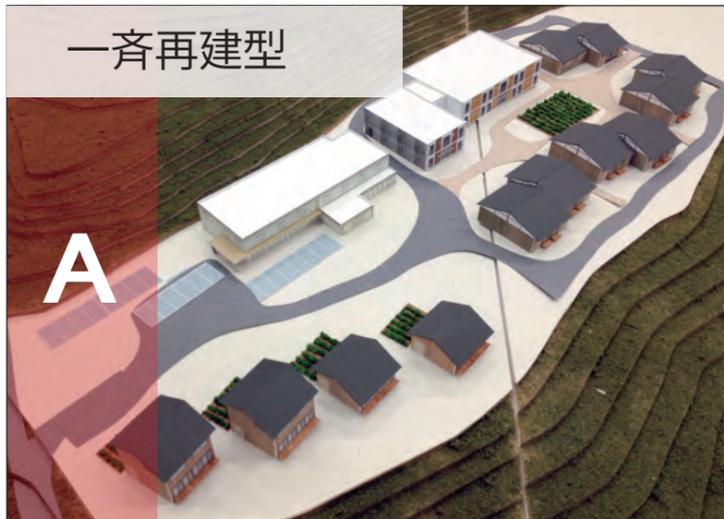
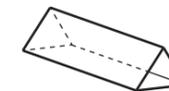
●敷地面積 _____ m²

●1世帯あたり 再建費用 _____ 万円

再建プラン A 案～C 案のどれかはりつけ

※再建プランを決定後、パネル③下部にはりつけ

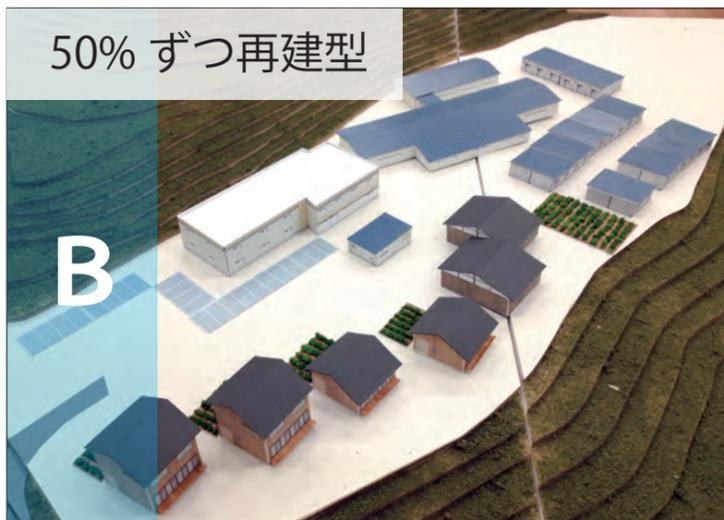
※点線に沿って折り、三角柱にして使用



一斉再建型

メリット…早期実現

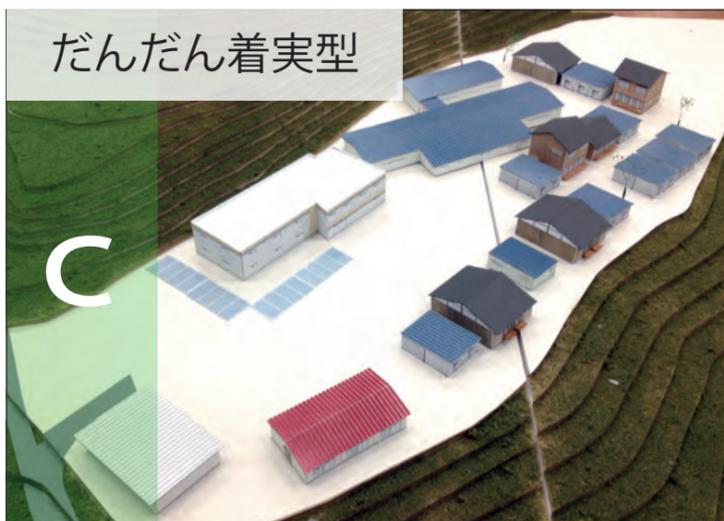
デメリット…仮住まいが必要
早急に費用が必要
全体での合意形成



50% ずつ再建型

メリット…前半入居者は空き家を仮住まいとして利用

デメリット…後半入居者の仮住まいが必要



だんだん着実型

メリット…希望住民から建替空き家を仮住まいとして利用可能

デメリット…実現が遅い



暮らししていきたい
 将来像：高齢だからこそ友達や近隣と助け合いながら
 今の住まい：建設技術学院跡仮設住宅
 職業：元機械工
 家族構成：独身

(男性)70代

増尾 隆弘
 たかひろ ますお

70代(男性)

家族構成：独身
 職業：元機械工
 今の住まい：建設技術学院跡仮設住宅
 将来像：高齢だからこそ友達や近隣と助け合いながら暮らししていきたい



のりしろ